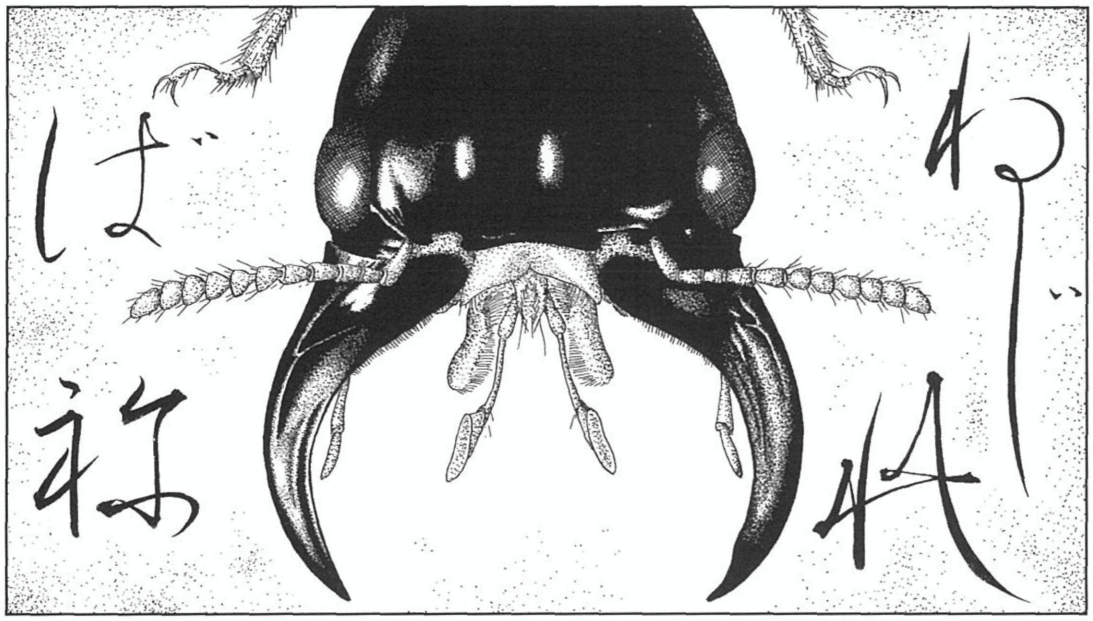
ISSN 1342-7911



NEJIREBANE, No. 77, 15.Dec., 1997

三重県産コメツキムシの記録 (1)

岸井　尚

〒569-11 高槻市上土室 1 丁目 10-6-410

この 10年以上の間に，三重県のコメツキムシの資料が生川展行氏を中心とする多くの同好諸氏のご協力により，広く県下一帯から収集され，筆者にその同定を依頼されてきた．その一部が生川氏により三重昆虫談話会の会報『ひらくら』に載ったことはあるが，全容は未発表のままであった．これは一重に筆者の無精のなせることで，貴重な資料記録をこのまま眠らせておくことは出来ず，これまでの分をまとめて記録することに関し生川氏の了解を得たので，本誌に発表することとした．この資料には既に専門誌に登載され，新種となったものが次ぎのように 3種あり，さらに未発表のものも若干存在する．

Kibunea narukawai KISHII, 1993, ホソヒメカネコメツキ

Ampedus (Pseudelater) otobei KISHII, 1986, ホソヒメクロコメツキ

Melanotus (Melanotus) narukawai KISHII, 1996, ナルカワナガクシコメツキ

三重県のコメツキの報告としては，大平仁夫博士や生川氏等が『ひらくら』誌上にそれぞれ4 編ほど発表されているが，県下を網羅したものはない．それでもこれまでの記録を総合するとほぼ170種ほどのものが記録されている．これは新潟県などに次ぐ記録と思われる．しかも今回の報告で更に20種ほど増えるので200種を越えるのは近いものと思われる．

資料収集に尽力された生川展行氏を始め多くの協力者の皆さんに心から謝意を表したい．なお姓のみを記したが，それぞれ下記が正しいフルネームである．
秋田勝巳・市川　太・今村隆一・乙部　宏・河北　均・斎藤昌弘・中西元男・生川展行・松井弘見
横関秀行（五十音順）．

Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus (MOTSCHULSKY, 1861) サビキコリ

上野市白樫(1♂, 16.VIII.1991, 市川); 上野市白樫八幡神社(1♂, 16.VIII.1996, 横関); 白山町四季の里(1♂, 26.V.1996, 河北).

Agrypnus (Agrypnus) cordicollis (CANDÈZE, 1865) ムナビロサビキコリ

大内山南亦山(2♀♀, 24.vi.1995, 生川); 紀和町布引滝(2♂♂, 25.v.1996, 横関).

Agrypnus (Sabikikorius) fuliginosus (CANDÈZE, 1865) ホソサビキコリ

上野市比自岐(1♂, 14.VII.1996, 横関).

Adelocera (Brachylacon) difficilis (LEWIS,1894) シロオビチビサビキコリ

紀和町木津呂(3♂♂, 11.V.1996, 横関)

Lacon (Alaotypus) maeklinii maeklinii (CANDÈZE, 1865) オオサビキコリ

上野市白樫(1♀, 16.VIII.1991, 市川); 亀山市野登山(1♀, 3.VII.1994, 生川); 宮川村父ケ谷(1♂, 15.VIII.1996, 生川); 大内山南亦山(3exs., 29.VII.1995, 生川); 尾鷲市九木崎(1♂, 27.VI.1993, 生川).

Cryptalaus berus (CANDÈZE, 1865) ウバタマコメツキ

上野市外山(1♂,1♀, 19.x.1996, 横関)

Pectocera hige hige KISHII, 1993 ヒゲコメツキ

上野市自岐(1♀, 14.VII.1996, 横関).

Homoteches motschulskyi kawasei (OHIRA, 1995) ヒラクラミヤマヒサゴコメツキ(写真1)

美杉村平倉(1♀, 31.V.1987, 乙部; 1♂,3♀♀, 27.V.1988, 乙部).

これまでに知られている本種の亜種群中では，*kai*, *shimotsuke* などに次ぐ大型の亜種で，今のところ平倉演習林地区のみに分布域が限られているようである．

Homoteches motschulskyi ssp. ミヤマヒサゴコメツキ亜種(写真2)

宮川村西ノ谷(1♀, 4.V.1994, 生川).

これまでに見たものの中ではもっとも大きい個体であり，前亜種に似ているが，貯精嚢内ブラシ状角質板の形態からは異なる．大台山系に分布する *subsp. taichii* と似ていなくもないが，より暗色なこと，極めて大きいこと，前胸背の点刻が小型で疎で，且つ前胸後角部側縁が強く内方に狭まり後角突起は外方に伸長するなど，異なる特長が多く見られるので別亜種とみなすべきもののようである．なお，よく似た個体が奈良の春日山からも得られており，これとの関連も考慮して結論を出

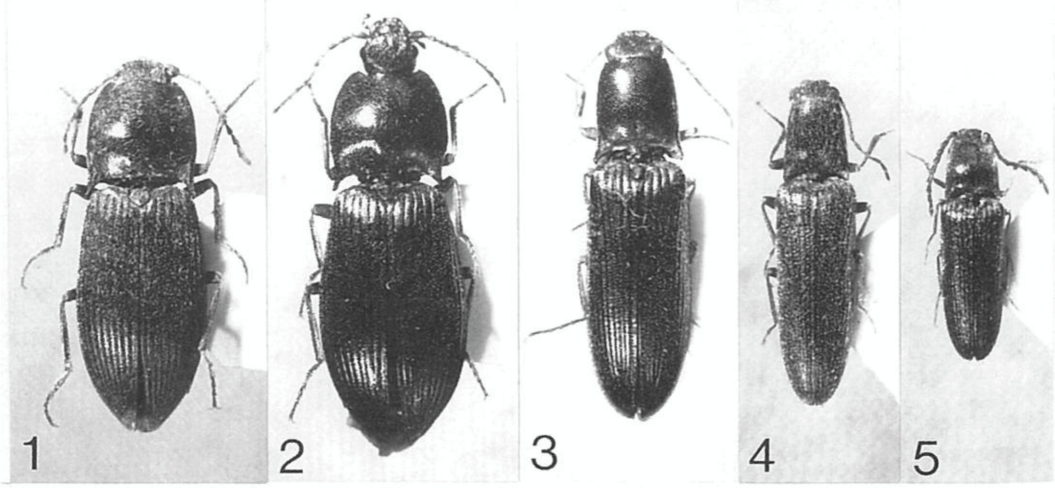


図1-5：1．ヒラクラミヤマヒサゴコメツキ；2．ミヤマヒサゴコメツキ亜種；3．クリイロツヤハダコメツキ；4．ウスチャイロカネコメツキ；5．ホソヒメカネコメツキ．

したい.

Ascoliocerus saxatilis saxatilis (LEWIS, 1894) ヒラタクロコメツキ

大内山南亦山(1♀, 6.V.1995, 生川)

Ascoliocerus fluviatilis (LEWIS, 1894) キアシヒラタコメツキ

紀和町布引滝(2♀♀, 11.V.1996, 生川; 2♂♂, 11.V.1996, 市川).

Elathous brunneus (LEWIS, 1894) クリイロツヤハダコメツキ(写真).

亀山市野登山 (1♂, 29.VIII.1993, 生川; 1♂, 14.VIII.1994, 生川; 1♂, 17.VIII.1996, 生川; 1♂, 21.VIII. 1996, 生川).

栃木県からの原記載後, 長く未発見であったが, 最近になり福島・静岡・兵庫・岡山・愛媛などから相次いで記録された. 三重県下からは初の記録であるが, このように継続的に得られている地は珍しい. なお, 鈴木(1987)も指摘したが, 上記のように夏季遅くなってから発生するので, これまで採集されにくかったのではないかと思われる.

Nothodes marginicollis (LEWIS, 1894) ウスチャイロカネコメツキ(写真4).

美杉村平倉 (1♀, 13.VII.1996, 市川); 大内山南亦山(1♂, 15.VI.1996, 生川; 1♂, 18.V.1995, 生川; 1♂, 20.V.1995, 生川; 1♀, 10.VI.1995, 生川); 尾鷲市桃頭島(2♂♂,1♀, 4.V.1996, 生川; 2♂♂, 4.V.1996, 市川); 紀和町布引滝(1♂, 11.V.1996, 市川).

一般には珍しい部類に入る種と思うのであるが, 当地方では比較的普遍的に見られる.

Kibunea eximia (LEWIS, 1894) ムラサキカネコメツキ

上野市西山(1♂, 2.VII.1996, 横関).

Kibunea approximans (LEWIS, 1894) キアシヒメカネコメツキ

亀山市野登山(1♂,1♀, 25.VI.1992, 生川; 1♂, 6.VI.1993, 生川; 1♂, 17.VI.1993, 生川).

Kibunea narukawai KISHII, 1993 ホソヒメカネコメツキ(写真5)

亀山市野登山(1♂, 5.V.1987, 生川).

前種や *K. kouichiana* KISHII, 1989 に近似の種であるが, 明瞭に小型で脚も大部分が黒褐色で前種のように明るい橙黄色でないこと, 頭部と前胸背の点刻が極めて小型で疎であること, および頭部前縁の形状などでこれらの種から容易に区別できる. 最近, 山梨県鳳凰山 (holotype) と上記の野登山 (paratype)から共に雄個体が一頭づつ得られたものである. 本属の邦産種ではもっとも小型で, ヨーロッパ産の *K. minuta* の小型個体とほぼ同じ大きさである.

Limoniscus vittatus (CANDÈZE, 1873) タテスジカネコメツキ

美杉村平倉(1♀, 12.VI.1996, 生川).

Limoniscus rufipennis (LEWIS, 1894) ハネアカカネコメツキ

美杉村平倉(1♂, 13.VII.1996, 市川).

Denticollis nipponensis nipponensis OHIRA,1973 ベニコメツキ

美杉村平倉(1♀, 28.V.1988, 乙部).

Denticollis miniatus (CANDÈZE, 1885) ミヤマベニコメツキ

亀山市野登山(2♂♂, 17.VI.1993, 生川); 美杉村平倉(1♂, 28.V.1988, 乙部; 1♂,1♀, 31.V.1987, 乙部; 1♂, 26.V.1988, 乙部; 1♀, 11.VI.1988, 乙部); 大内山南亦山(1♂,1♀, 7.VI.1995, 生川).

Harminius (Harminius) galloisi MIWA, 1928 ガロアムネスジダンダラコメツキ

宮川村栗谷(1♂, 9.VII.1994, 生川).

Stenagostus umbratilis (LEWIS, 1894) オオツヤハダコメツキ

菰野町雲母峰 (1♀, 28.VII.1993, 生川); 鈴鹿市長瀬神社 (1♀, 4.VII.1994, 生川); 亀山市野登山 (3♀♀, 7. VIII.1992, 生川; 1♀, 3.VII.1994, 生川; 1♂, 15.VII.1994, 生川; 1♂, 27.VII.1994, 生川; 2♀♀, 31.VII.

1994, 生川; 1♂,1♀, 5.VIII.1994, 生川; 1♂,1♀, 6.VIII.1994, 生川; 1♂, 14.VIII.1994, 生川; 1♂,3♀♀, 2.VIII.1995, 生川; 1♂, 13.VII.1992, 生川; 1♀, 7.VIII.1992, 生川); 上野市自浄(1♀, 14.VII.1996, 横関); 宮川村栗谷(1♂, 9.VII.1994, 生川); 宮川村父ケ谷(9exs, 22-23.VIII.1992, 松井; 1♀, 18.VII.1996,生川; 1♂, 5♀♀, 15.VIII.1996, 生川; 1♀, 18.VII.1996, 生川; 1♂,5♀♀,15.VIII.1996, 生川);大内山南亦山(1♀, 29.VII.1995, 生川; 1♀, 19.VIII.1995, 生川).

Scutellathous sp. ホソアカツヤコメツキ

大内山南亦山(1♀, 5.VIII.1995, 生川).

これには現在のところ明確で正当な種名がない．近似の *S. comes* チャイロツヤハダコメツキとの関係が今一つ明らかでないためであるが．北海道・東北・関東・甲信越・東海・近畿に分布する細く軟弱なタイプで前胸背点刻が疎のものが後者で，甲信越・東海・近畿・中国・四国あたりで見られるやや太く大型で暗色がかり前胸背点刻が明瞭に密で一部蛇の目状のものは新名が必要で，上記の大内山南亦山の標本は典型的なそのタイプである．また九州本土のものはこれらとも異なる別種であり，屋久島の従来 *S. comes yakuensis* とされていたものは屋久島固有の種と見なされる．更には四国の徳島県剣山周辺には別種 S.shikokuanus が分布しているので，他に記載されている4種を含め，本邦には10種ほどのものが分布することになるが，互いによく似ているので分類は難しいグループである．本種の和名は CANDÈZE (1873)が *Athous suturalis* として記載した種が本種を指すと誤認された時付けられたもので，後に *Harminathous nakanei* と同物で後者がシノニムとなり，実体に付けられたものを残した方が混乱が少ないと思い使用したものである．

Medakathous jactatus jactatus (LEWIS, 1894) メダカツヤハダコメツキ

亀山市野登山(1♂, 28.VII.1992, 生川; 2♂♂, 12.VIII.1993, 生川; 1♀, 2.VIII.1995, 生川); 大内山南亦山(2♂♂, 26.VII.1995, 生川).

Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus (CANDÈZE, 1873) クロツヤハダコメツキ

菰野町雲母峰(1♂, 25.VII.1993, 生川); 亀山市野登山(1♂, 17.VII.1993, 生川; 1♀, 12.VIII.1993, 生川; 2♂♂, 26.VII.1992, 生川; 1♀, 31.VII.1994, 生川); 上野市西山(1♂, 2.VII.1996, 横関); 美杉村平倉 (1♂, 23.VII.1989, 乙部); 宮川村栗谷(1♂, 9.VII.1994, 生川); 宮川村広クリ谷(3♂♂, 10.VII.1994, 生川).

（つづく）

訂正　筆者の前報である"山屋茂人氏蒐集の珍しいコメツキムシ" (ねじればね, No.74, 1996 : 1-4) の内容について，福島の久保田憲二さんからご親切なお手紙を頂き，報文内の地名表記の誤りを指摘頂いたので，下記のようにここで訂正します．標本に付けられていた表記の，筆者による転記ミスで，山屋さんや採集者(上記の久保田さんのお兄さん)にこの紙面でおわびします．

採集者名の訂正　Y.松崎 → A.松崎 (松崎 有光)　p.4.

採集地名の訂正　ヌバタマクロコメツキ: 上枝 → 上江田　p.4.

タンバコクロコメツキ　竹渡 → 竹渡戸　p.4.

タンチャメクシコメツキ 鹿児島県奄美諸島喜界ケ島ゼンタ →
沖縄県久米島ゼンタ(銭田森林公園)　p.4.

なお，沖縄本島を原産地とする *M. loochooensis* MIWA, 1929 リュウキュウクシコメツキの奄美亜種群に *tanchamelis* の亜種名がつかわれているが，沖縄本島あたりの個体群との差はほとんど認められず，石垣あたりのものとは異なるので亜種群と分布域の整理が望まれる．いずれにしても喜界ケ島からの記録はないことになるので，この点も訂正しておく．　（きしいたかし）

山梨県韮崎市のマメマダラテントウ(日本新記録・新称) *Epilachna varivestis* について

佐々治寛之
〒910 福井市文京 3-9-1 福井大学教育学部生物学教室

1996年秋，大学研究室に水野弘造氏（京都府宇治市）が来訪され，山梨県韮崎市で細田倖市氏が採集されたテントウムシ類の標本の同定を依頼された．その中に，日本未記録のマメマダラテントウ *Epipachna varivestis* MULSANT, 1850 が入っていた．標本データは次の通り（筆者保管）．

1♂, 韮崎市円野(まるの)町， 2.VII.1996, 細田倖市採集.

マメマダラテントウ

偶産の可能性もあったので， 追加標本が確認されるまで発表を控えていたところ，1997年6月， 細田氏はインゲンマメ畑で複数個体を採集され，水野氏に標本を送られた．

3exs.,韮崎市円野町, 18.VI.1997; 3exs.,同所, 19.VI.1997, 細田倖市採集(うち， 1♂,1♀を筆者保管． 残りは水野氏保管)．これで韮崎における発生はほぼ確実となった．

本種は北・中米産のインゲンマメ・アオイマメ・ダイズの著名な害虫で日本からの記録はなかった．韮崎ではインゲンマメを食害しており数はあまり多くないそうである．以前，塩尻峠産，5. X. 1994 採集という標本の存在を聞いたことがあったが，実物を確認したのは韮崎産が初めてである．和名はマメを食害することがマダラテントウ類としては異色であるので表記のようにした．

1992年， 筆者は「日本から最近新しく追加されたテントウムシ類」を発表したが，大阪市立大学の沼田英治博士から同大学キャンパス内（大阪市住吉区）で学生が採集したというクモガタテントウ（北米産で東京近郊の埠頭などでも採集されていた）をみせてもらった．また，ヨーロッパや北米産のフタモンテントウ *Adalia bipunctata* (LINNAEUS, 1758)が1993年に大阪市内の湾岸地域の緑地で発見され， 大阪での越冬や発生が確認されている（河内・桜谷，1996).

GORDON (1985) によると，おびただしい数のテントウムシ類が生物的防除の目的で合衆国に移入されており，その一部分は定着に成功している．ベダリヤテントウの輝かしい成功例を引用するまでもなく，外国産の天敵を移入する生物的防除の手法は極めて有効な成果をもたらすが、生態系の撹乱という問題点を伴うため、ただ喜んでばかりはおれない．マメマダラテントウは捕食性のテントウと競合することはなさそうであるが，米国におけるジャパニーズ・ビートルズのようになりかねない．オオニジュウヤホシテントウによって穴だらけになったジャガイモ畑のようなインゲン畑にしたくないのが念願である．

標本をお送り下さり，発表をすすめられた水野弘造氏にお礼申し上げる．

文献

佐々治寛之（1992), 日本から最近新しく追加されたテントウムシ類, 甲虫ニュース,(100): 10-13.
河内・桜谷 (1996), 『動物の生態と環境--動物との共生をめざして』, 共立出版.
SAKURATANI,Y.(1994), New records of *Adalia bipunctata* (LINNAEUS)(Coleoptera, Coccinellidae)from Japan. Jpn. J. Entom. 62:67-68.
GORDON,R.D.(1985), The Coccinellidae (Coleoptera) of American North of Mexico. J.N.Y.Entom.Soc. 93:1-912.

（ささじひろゆき）

近畿地方におけるナガクチキムシの記録

水野 弘造
〒611 宇治市木幡熊小路 19-35

ナガクチキムシの愛好者が増え，各種毎の分布状況も徐々に明らかにされて来ていることは喜ばしい．次に述べる標本は，筆者による調査では，それぞれの産地においてその府県単位での初記録であろうと思われるので，記録しておきたい．採集者各位には標本検視の機会を与えられ，発表を許可していただいたことに感謝する．また写真撮影をしていただいた斎藤琢巳氏に感謝する．

1．*Hallomenus nipponicus* NOMURA et KATO ミヤマヒメナガクチキムシ
京都府美山町芦生演習林　1 ex. 22.IX.1996, 北山 健司(採)
本種は中部山岳においてはかなりの高標高地に夏季見られ，希ではない．西日本では，三重・奈良・岡山・広島の諸県に記録が見られ，秋季希に採集されているようである．今回の京都府の標本も秋季キノコより採集された．

2．*Holostrophus diversefasciatus* PIC カトウヒメナガクチキムシ
和歌山県中辺路水上研究林　1ex. 27.V.1995, 加藤 敦史(採) 図1.
本種は北海道から九州まで広く分布するが，対馬を除いては何処においても極めて希のようである．近畿では，三重県と滋賀県に記録がみられたに過ぎない．

図1．カトウヒメナガクチキ

3．*Lederia japonica* REITTER チビノミナガクチキムシ
大阪府豊能町高代寺山 3exs. 9.V.1994, 田中 勇(採)
本種は平地暖帯林に主として分布するようで，通常落葉をふるうなどの方法で採集されるが，上記標本は朽木上のキノコに見られた．体長は2mm前後が普通であるが，上記の内1♂は珍しくも2.5 mmを越す大型個体であった．

4．*Wanachia trisignata* (CHAMPION) ミツボシケシナガクチキムシ
兵庫県西宮市仁川 2exs. 22.V.1994, 斎藤 琢巳(採)
本種は海岸からかなりの深山まで分布する普通種で，松の枯枝に付くキノコ(スエヒロタケなど)に依存する．多くの甲虫採集家の盲点ともいうべき松林に発生するため記録例は少なく，また採集されたととしても形態的にナガクチキと気づかず，ケシキスイなど他科の甲虫と混同されている可能性も高い．近畿では模式産地京都のほか，三重・奈良・和歌山の諸県からは既に報告されていたが，兵庫県の記録を見なかった．

5．*Dircaea dentatomaculata* LEWIS ハガタホソナガクチキムシ
奈良県下北山村前鬼 1ex. 23.V.1993, 加藤 敦史(採) 図2.
本種もカトウヒメナガクチキと同じように，北海道から九州まで広く分布し，しかも平地・山地を問わず採集されているが，個体数は何処にも多くなく，採集のむづかしい種である．

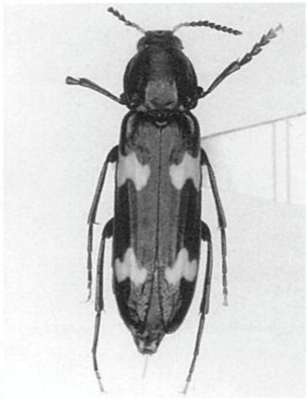


図2．ハガタホソナガクチキ

6．*Spilotus uninotatus* (PIC) カタモンセマルナガクチキムシ(新称)
大阪府豊能町高代寺山 1ex. 30.IV.1994, 田中 勇(採)
本種はは従来，*Pseudozilora quadrimaculata* NOMURA ヨツモンヒメナガクチキまたはヨツモンホソナガクチキとして図示されてきた．森島直哉氏がパリ自然史博物館で，*Micromarolia uninotata* PIC の模式標本を

検視され，両者が同一種であることを確認された．一方 NIKITSKY (1989) が *Pseudozilora* 属は *Spilotus* 属の synonym であるとしたため,学名は上記のようになる．和名の由来である紋の数であるが肩紋は安定で常に現れるが，後紋は不安定で消失する傾向が強く PIC の与えた *uninotata* なる種名は紋が1個，すなわち後紋消失型を表現している．他種とまぎらわしい従来の和名を廃し，かつ学名との調和も考慮して上記のように新称を与えた．暖帯林から温帯林下部にかけて分布するもののようであるが，記録は少なく，採集しにくい種の一つである．

7．*Eumelandrya duodecimmaculata* (NAKANE et HAYASHI) ジュウニホシナガクチキムシ

奈良県大塔村赤谷(酢酸ベンジル・トラップ) 1ex. 16-17.VI.1993, 加藤 敦史(採)　図 3.

図3．ジュウニホシナガクチキ

本種は一見して種の判別が可能な美麗珍種で，長野県以西の西日本に分布し，産地は局所的で個体数も少ない．近畿では京都府と兵庫県の記録があるが，紀伊半島の記録を見なかった．ナガクチキ類の採集に酢酸ベンジルなどの香気源を用いる衝突板トラップが有効であることは既によく知られているが，通常訪花性の見られないナガクチキが誘引されているのは，香気によるのか衝突板の輝きを視覚でとらえての誘引なのかメカニズムは不明である．しかしながら，本種のような希少種が誘引されるとすれば，今後積極的にこのトラップの活用を計りたいものである．

8．*Melandrya sp.* (nr. *shimoyamai*) ルリツヤナガクチキムシ

和歌山県美山町護摩壇山（ミズナラ立ち枯れ）　2exs. 25.VII.1991, 加藤 敦史(採)　図 4.

図4．ルリツヤナガクチキ

本種は *M. shimoyamai* ルリナガクチキムシに近似の青色光沢を有する美麗種であるが，まだ正式名称がない．ルリナガクチキが石川県以東以北に分布するのに対し，本種は京都府以南以西に分布する．紀伊半島においては奈良県（稲村ケ岳・和佐又山）から知られているが，和歌山県からの報告を見なかった．本種に対して筆者は従来ヒメルリツヤナガクチキの名称を用いていたが，標本検視例の増加と共に，むしろルリナガクチキよりも大型の個体の多いことが判明したため，首記のものとした．ルリナガクチキと比較すると体がやや厚く，上翅光沢がより強い．

文献

水野弘造(1992): 関西甲虫談話会資料, (3): 1-63.
NIKITSKY(1989): Archiv. Zool. Mus. Moscow State Univ., 27: 3-87.

（みずのこうぞう）

ちょっと気になる甲虫の情報 (VII)

最初 *Agonum* 属として記載され，後に記載者自身が，*Platynus* 属へ移したタカバクロヒラタゴミムシは，この属のものとしては珍しく後翅が退化しており上翅肩部の張り出しも弱く，後胸前側板が弱いなどの特徴をもっていて，一見して異端者のにおいがする．しかしながら，雄交尾器の内袋のキチン化片から，外部形態が非常に異なる同属のオオヒラタゴミムシ と同系統と考えられている．今までのところは記録も少なく，分布も限られていて，ゴミムシ屋ならずとも，標本箱に並べておきたい珍しいゴミムシである．(伊藤 昇)

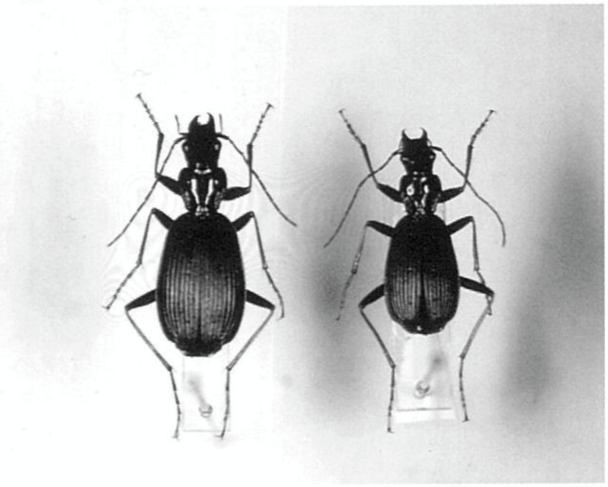
タカバクロヒラタゴミムシ　*Platynus (Pseudoplatynus) takabai* (HABU, 1962)

タカバクロヒラタゴミムシの追加記録

森　正人
〒651-14　西宮市すみれ台 2-2-5

タカバクロヒラタゴミムシは石川県金沢市卯辰山で得られた1♂（高羽正治氏採集）を基に新種記載された特異なヒラタゴミムシで，その後石田（1962)が松江から1♀を記録し，また HABU(1978)はこのほかに金沢市医王山，島根県隠岐島大満寺を産地としてあげているが，いずれの地でも希な種類である．本種はオオヒラタゴミムシ *Platynus magnus* (BATES) にやや似ているが，後翅が退化しているため肩部がなだらかでより細長く一見して識別は可能である．筆者は過去に京都府竹野郡弥栄町で本種を採集し［伊藤・高橋・水野(1997) に記録済み］，また基産地の金沢市においても数個体を確認することができたので，その生息環境と併せて報告する．

1♀，　京都府竹野郡弥栄町，
30.V.1992.
2♂♂,2♀♀，石川県金沢市桐山町，
25.IX.1993.



タカバクロヒラタゴミムシ（金沢市産）右：雄　左：雌

金沢市における記録はゲンゴロウ類の採集時に得られたもので，放棄水田の奥にある水たまり(水深が比較的深く，周囲が水草で囲まれた）の中のウキシバを踏んで浮き上がって来た4個体を採集したものである．このような採集方法は水域に生息するトックリゴミムシ類やクビナガゴミムシ類，また一部のヒラタゴミムシ類などの採集に有効であり，本種もこのような水草の多い水域環境に生息する可能性が示唆される．しかし，過去に幾度となく行ったゲンゴロウ類の採集時に得られたことはなく，また弥栄町での採集個体は神社林の林縁部に設置したベイトトラップにより得られ，特に水域と関連があるような環境ではない．更に，石田（1962) による島根県松江市の例は樹皮下からのものである．本種の生態・生息環境に関しては未だ不明な点が多く，今後は水域環境も追加して留意する必要があると考える．なお本種は今のところ本州の日本海側でのみ記録されている点も指摘しておく．最後になったが，協力頂いた北山昭氏にお礼申し上げる．

参考・引用文献
HABU,A.(1962) Two new Agonum species from Japan. Kontyu,30: 171-174.
石田裕 (1962) タカバクロヒラタゴミムシの雌について. 昆虫学評論15: 24.
HABU,A.(1973) A new subgenus of Platynus and its peculiar tibial. Ent.Rev.Japan,25: 11-12.
HABU,A.(1978) Carabidae Platynini (Insecta: Coleoptera) In:Fauna Japonica.
上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝 (1985) 原色日本甲虫図鑑 (II), 保育社: 122.
伊藤昇・高橋敞・水野弘造 (1997) 関西甲虫談話会資料 (11): 1-59.

（もりまさと）

ちょっと気になる甲虫の情報 (VIII)

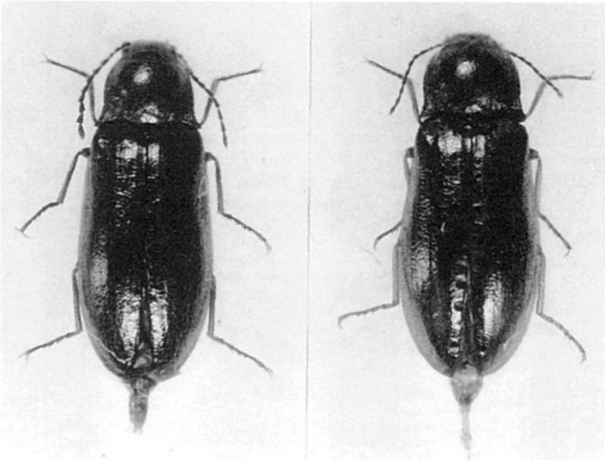
マルムネゴミムシダマシの形態情報遺伝子をコメツキに持ち込めばかくもあらん，というのがこの奇妙な異形コメツキの容姿であろう．これを美しいと見るか，滑けいと見るかは自由であるが，その珍奇度からも是非ともコレクションに加えたいのが甲虫屋の人情というものである．記載者の岸井先生からしてホロタイプの♂しか手元になく，鳳凰山産の♀を見せたところ，たちどころに『これは要ります！』と巻き上げられてしまった編集子には思い出深い虫である．(水野)

Eanus costalis shibatai KISHII シバタニセヒラタコメツキ

シバタニセヒラタコメツキを奥秩父山系で採集

雛倉正人
〒112 東京都文京区白山2－20－13 鯉田荘

シバタニセヒラタコメツキは、北アルプスの" Tsurugisawa at Mt. Tsurugidake (alt. ca. 2500 m)" にて採集された個体をもとに1968 年に記載された稀種である．これまでの産地としては，基産地富山県剣岳（記載文では長野県となっているが，当地は富山県立山町に属する）のほか，新潟県朝日山系の新保岳，南アルプスの鳳凰山（山梨県）が知られている．また北海道の亜種 *Eanus costalis konishii* OHIRA コニシニセヒラタコメツキは，大雪山系の湧駒別や沼ノ原および日高山系の戸蔦捌岳稜線部で記録されている．剣岳の産地はかなりの高標高であるが，新保岳では標高 820 m の低山で，鳳凰山では亜高山帯の針葉樹林内で採集されており，この種の生息環境については不明の点が多い．



シバタニセヒラタコメツキ（金峰山産）左：雄　右：雌

秩父連峰の金峰山は，高山植生の発達の悪い当山岳地にあって，頂部に広いハイマツ帯を持つ唯一の山である．筆者はハイマツのビーティング中に，本種を得たので記録しておく．

1♂,1♀, 長野県金峰山（alt. 2450-2500 m), 6.VII.1997, 雛倉正人（採集／保管）（図）

当日は同様の採集法で，*Selatosomus impressus, Liotrichus hypocrita* 等のコメツキや，ハイマツハナゾウムシ，ジョウカイの *Phagonycha sp.* 等を得たが，ダイモンテントウは見つからなかった．

文献
浅野正信・桜井正俊，1997. 日高山系戸蔦別岳周辺の甲虫類相調査報告，上川町の自然，19: 67-74.
馬場金太郎・大平仁夫，1973. 新潟県のコメツキムシ科について(追補　I)．越佐昆虫 同好会々報，43：3-14.
KISHII,T. 1968. Some new forms of Elateridae in Japan(V). Bull.Heian HIgh School, 13:49-63, 3 pls.
岸井尚, 1990. 南アルプス鳳凰山のコメツキムシ（続報）. 月刊むし, 238:27-30.
保田信紀, 1985. 糖蜜トラップによる大雪山の甲虫類相調査 III, 五色ヶ原・沼ノ原. 上川町の自然, 10:93-100.

(ひなくらまさと)

ヒイロナガクチキムシの岩手県における記録

奥田好秀
〒562 箕面市瀬川 3-3-11-301

古い記録であるが，筆者は岩手県でヒイロナガクチキ *Dapsiloderus nomurai* (NAKANE et HAYASHI)を採集しており，岩手県からの初めての記録と思われるので報告しておく．

1♂, 岩手県下閉伊郡平津戸(葛部沢), 4.VII.1985, 奥田好秀(採).

なお，岩手県のナガクチキムシの記録について指摘され，記録の報告を勧められた水野弘造氏にお礼申し上げる．　(おくだよしひで)

虫屋の広場（6）

-- 虫屋のお宿 --その3　和佐又山ヒュッテ（岩本二朗氏経営 : Tel. 07468-3-0027）

ヒュッテ前にて（撮影　水野）

日本甲虫学会の運営を新メンバーで引き継いでから，初めての採集会を和佐又山で開催（1997年6月14-15日）．直前の取り消しや申し込みなどで結局12人の参加となり，多からず少なすぎずの和気あいあいの懇親会となった．

和佐又山ヒュッテは奈良県には珍しいスキー場ヒュッテとして建設され，大峰山系には希な明るいオープンランドを提供しているため，甲虫採集には好適な環境となって数々の珍種が記録されて来ている．また大阪府立大学・近畿大学などの昆虫専門家のフィールドとしても実績がある．ヒュッテの主人岩本二朗氏自身が昆虫の採集・観察に熱心で秘蔵の珍奇昆虫コレクションと共にその生態情報は当山を訪れる虫屋に必須のもので，当山が何度訪れても飽きのこない所以である．

6月14日は梅雨とも思えぬ好天気で，チャマルチビヒョウタンゴミムシ *Dyschirius yanoi* の採集術伝授などで初めてこれを手にする者には嬉しい機会であったが，カミキリなどではこれと言った収穫はなく，ルリツヤナガクチキ（草上）とミヤマダイコクコガネ（灯火）を採取した奥田氏のワンマンショウに終わった．翌15日は朝から雨模様となったため，二・三人の雨をものともしない熱心家を除いて，ヒュッテで岩本氏の甲虫談義を聞き，氏のコレクションの中からホソツツリンゴカミキリ・ツヤハダクワガタ・アイヌコブスジコガネなどを配給していただいた．

なお夜間灯火は岩本氏の御好意で見晴らしのよい二か所に強力な光源を点灯して頂き，多数のケブカマグソコガネの飛来があったが，消灯直前のミヤマダイコク（前述）以外には目ぼしいものは採れず，灯火採集には季節がまだ早い印象であった．夏季にはヨコヤマヒゲナガカミキリも来るという話である．

参加者氏名：アルファベット順
林　靖彦・伊藤　昇・伊藤建夫・水野弘造・中村俊彦・岡田暁生・奥田好秀・高橋　敞・武田雅志・八木正道・安井通宏・吉田篤人（以上12名）．　(水野弘造　記)

虫屋の広場（７）

日本昆虫学会第５７回大会

本年１０月３日から５日にかけて九州大学において開催された．ここ十数年は応動昆との共催で行われてきたが，合併問題の不調から昆虫学会の単独開催となった．参加者は約３００余名とこじんまりしたものであったが，発表は件数も内容も充実したものであった．ただ最終日の午後に設定されていた甲虫関係の発表の多くが，急用のため聞く事ができなかったのは残念であった．部門別小集会の甲虫類では日本鞘翅学会が主催し，話題提供と一人一話があり，その後懇親会へと引き継がれた．応動昆との決別により機関誌の編集方針を改め，欧文誌と和文誌の二本立てとすることが発表され，１９９８年から実施される．和文誌は当面年二回発行とするが，体制の整い次第四回発行に移行する．いずれにしても開かれた学会，アマチュアにも親しみのもてる学会にしていこうという姿勢が強くをうちだされた大会となった．

来年度は滋賀県立大学（彦根市），再来年度は愛媛大学（松山市）で開催される予定である．

（林　靖彦　記）

虫屋の広場（８）

地表性甲虫談話会の発足

第一回地表性甲虫談話会が，今年の１０月１８-１９日の両日，大阪府立大学農学部（堺市）で開催された．パソコン通信での呼び掛けも行われ，当日は大学および研究センター関係（農学・理学・環境科学など），博物館，試験所，アセスメント会社それに分類の専門家などプロ／アマチュアあわせて二十五名の参加で行われた．発起人代表石井 実府立大学教授のあいさつのあと，オサムシの来た道（富永 修），ほ場整備のオサムシ群集への影響（石井 実），地表徘徊性甲虫類を利用した環境評価（石谷正宇），滋賀県内におけるオサムシ類の分布（八尋克郎），ゴモクムシ類の食性に関する実験について（三宅英伸）以上１８日；北海道の地表性甲虫類（堀 繁久），シデムシ類の生態について（春沢圭太郎）以上１９日．各話題とも分類上の指摘もまじえ，分布・生態・環境・アセスメント上の問題点などにつき活発な討論がなされ，今後の談話会の発展が期待される．なお初日の発表の後，標本室の見学および懇親会が，そして二日目は最後に，事務局の選定と今後の談話会の予定等が協議された．（事務局：滋賀県立琵琶湖博物館 分類研究室，八尋克郎；〒525 草津市下物町1091番地，TEL 0775-68-4800）．

（伊藤建夫　記）

会報

9月例会記録（1997年）

会員相互の親睦を目的とする例会第3回目は１９９７年9月２８日午後1時より大阪市立自然史博物館に於いて開催された.

林会長より挨拶及び会務全般についての報告後，会計状況（野村），評論の編集状況（伊藤建夫），ねじればねの9月増刊と6月の和佐又山の採集会の報告（水野）が行われた．会務報告後，高木真人氏による『北ベトナムの自然と昆虫・近況』と題しての講演が行われた．氏は洋蘭栽培の専門家として琴平の農業大学に勤務の傍ら，ライフル射撃や写真など多彩な活動をされているが，最近学生時代より興味を持っていた甲虫採集を再開され，5月中旬に北ベトナムのカオバン，タムダオ周辺に採集に行かれた．北ベトナムの気候・地質・植生などの説明をされた後，カミキリやトンボを中心にスライドを用いて，大変わかり易くお話いただいた．今後北ベトナムに採集に行かれる同好者には参考になったと思う．質議応答の後，多数の標本（購入分も含む）の回覧も行われた．最後に例会では恒例になった一人一話があり，和やかな雰囲気のうちに閉会した.

当日の出席者は下記の通り(敬称略・アルファベット順).

林　匡夫　浜口正博　保科英人　伊藤　昇　伊藤建夫　黒田祐一　三木三徳　水野弘造　野村英世　奥田則雄　初宿成彦　田中昭太郎　高木真人　土屋周平　和田洋介　八木正道　吉田元重

（野村英世　記）

発　行:　1997. 12.15　　日本甲虫学会
〒558　大阪市住吉区苅田2-16-5 レジデンス寿202　林　匡夫
Tel:　(06) 698-2964　　振替口座:　00990-8-39672

ねじればね原稿送付先
〒611　宇治市木幡熊小路１９-３５　　水野弘造 Tel 0774-32-4929
〒614　八幡市男山雄徳８　Ｅ７-３０３　　伊藤建夫 Tel (Fax) 075-983-3491